



特集 その後どのように暮らしていますか？

季節ごとの家時間を楽しむ暮らし

特集 その後どのように暮らしていますか？

季節ごとの家時間を楽しむ暮らし

東京都小平市 | 木造一戸建て(建築家と建てる家) | T邸(ご夫婦)



庭の点検をする造園家 小林賢二さん

1

ストーリー

今回で紹介するのは、ご夫婦二人で仲良く暮らされているT様のお住まい。もともとこの場所に建っていた実家が老朽化していたため、ご両親とリフォームや建替えの検討をはじめたことをキッカケに、T様ご夫婦も自分たちの家づくりを考え始めるようになりました。「将来的に親の近くに住めたら安心と感じていたこともあり、できればここに2軒建てられたら良いと考えていました」とご主人。そして自身の好きな家の雰囲気を本屋さんやwebで調べていたところ『i-works project』の家づくりに興味を持ち、近隣の施工工務店である相羽建設のモデルハウス(伊礼智さん設計)へ見学に訪れたといいます。「モデルハウスでは宿泊体験もできて、こんな素敵な暮らしがあるんだ!」と衝撃を受けられたようでした。



外観

2

家時間を楽しむ

「当時は伊礼さんのことをあまり知らなかったのですが、担当スタッフの遠藤さんにいろいろお話をお伺いする中で、家づくりの考え方や作風にとっても魅力を感じ、その想いを遠藤さんにお伝えしたところ、なんとご紹介頂けたんです！建築家に家を頼むなんて、夢のまた夢だと思っていたので嬉しかったです」と笑顔でご主人。また、幼い頃からたくさんの庭の樹々や緑に囲まれて育ったというご夫婦。「家が小さくても良いので、窓から眺められる庭がほしいと思っていました。ちょうどつむじのモデルハウスで造園家の小林賢二さんの手掛けた庭を見てすごく気に入り、ぜひお願いしたいなって」。そこからT様ご夫婦の住まい設計を伊礼さん、ご両親の住まい設計を相羽建設、両家をつなぐ造園を小林さんという共同計画により完成した二つの住まい。

暮らしはじめてから2年。休みの日はゆっくりとお茶をしたり、2階リビングのデッキに腰かけながら四季折々の庭の景色を楽しむ……。なにげない、けれども特別な家時間。



▲ 今でも大事に飾っているプラン提案時の模型



2階デッキから外の景色を眺めるご夫婦



ご主人お手製の化粧箱



こだわりのハンドドリッブコーヒー



デッキとつながる1階和室



顔の見える対面キッチン

3 暮らしを楽しむ



2階リビング

▶ シンプルに必要なものだけ

週末には共通の趣味である山登りにいくことが多いというT様ご夫婦。また自転車で山を走ったり、薪ストーブを楽しんだりと多趣味。その分道具もたくさん持っていたため、収納場所を設けることが家づくりのひとつのポイントでした。「収納スペースや庭を広くとっていたこともあり、居室はコンパクトになりましたが、居心地の良い場所がいっぱいあるんです。小上がりの畳や1階のデッキスペースでご飯を食べることもあったり、この家を無駄なくフル活用できてます」とニコリ。



玄関土間

見て・食べて 楽しむ庭



- 1…きれいに紅葉した植栽。
- 2…BBQも楽しめるウッドデッキ。
- 3…ご主人お手製の花差し。
- 4…一緒に取材に同行して下さった造園家の小林賢二さん。



お二人の好きな山にあるような植栽イメージで小林さんが手掛けた造園。「まちの風景として道行く人たちにも楽しんでいただけたら」というT様の想いから、塀などは設けず通りに開いたお庭へ。ワイルドストロベリーやミツバなど普段の食卓でも楽しめる植物も植えられています。

取材後記

山登りが好きなT様ご夫婦。実はお二人の出会いも山だっというなんと素敵なエピソードも！そんな思い出の場所でもある、八ヶ岳の赤岳山頂からとった富士山の写真が室内に飾っており、ほっこりした気持ちになりました。現在は日本百名山制覇を目指して全国各地の山を車でまわっているそうです。現在81箇所目ということであと少し！応援しております！（記：広報 吉川）



赤岳からの風景写真



設計：伊礼智設計室 <https://irei.exblog.jp/>
 造園：小林賢二アトリエ <https://kobayashi-atelier.com/>
 施工：相羽建設／撮影取材・編集：伊藤・吉川・小林 ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

永く使い込む楽しみのある家

特集 その後どのように暮らしていますか？

永く使い込む楽しみのある家

東京都八王子市 | 新築一戸建て (i-works project 1.0) | N邸 (ご夫婦)



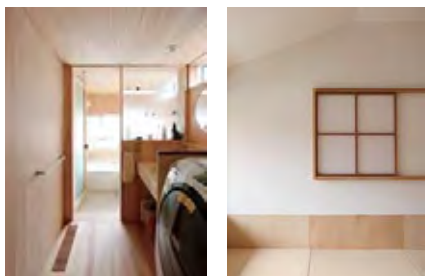
1 ストーリー

今回ご紹介するのはN様ご夫婦と2匹の猫ちゃんの暮らし。住みはじめてからちょうど1年ほど経った現在の暮らしぶりや、建築当時の家づくりについて伺いました。

お父様が建築士、おじい様が大工だったというご主人と、建築士のお仕事をしている奥様。お二人にとって "家" は身近な存在でした。そのため、自分たちが家を建てる際も愛着を込め、流行り廃りなく永く使い込めるような住まいにしたい——そんな想いがあったそうです。「いよいよ家を建てようと思って、自分で設計するか建築家さんをお願いするか迷っていたら、ちょうど本屋で伊礼さんの本に出会ったんです。『標準化』というのが私たちの価値観に合っていて良いなあって。その後『i-works project』という家があることを知り、さっそく茨城県にあるモデルハウスまで見に行ったら、もう一目惚れでした!」。

2

居心地の良い場所



統一感のある
自然素材の空間

建築家の伊礼智さんが提案する『標準化』された家づくり。誰もが心地良いと感じる、飽きのこない住まい。



シンプルですっきりとした空間の1階リビング

▲ 壁材はビーナスコート、床は無垢の杉材を使用

吹き抜けのある、ゆったりとした1階リビング。休日には、大きな窓から外の景色を眺めつつ、薪ストーブの炎で暖まりながらソファでまったり……そんな贅沢なひと時を楽しまれているN様。家が完成してからはじめての冬を迎えて、薪ストーブを使った料理も楽しまれていました。

「改めて家づくりを振り返ると、“良いものが決まっている状態を選べる”っていう『i-works project』の特徴が私たちにはとても良かったです。トータルコストも最初から見えていたし、ここをもっとこうすればよかった!みたいな後悔もない。違和感なく住みはじめられましたよ。

あと、以前住んでいた家では猫たちが部屋を自由に行き来できなかったのですが、この子たちにとっても住みやすい家になったんじゃないかな」と笑顔でお話くださった奥様。取材中も2匹の猫ちゃんたちが薪ストーブの前で暖をとったり、元気よく走り回ったりしていました。

3 暮らしを楽しむ



自宅でアウトドア気分

ご夫婦一緒にはじめてという趣味の山登り。家の中にはコンパクトに収納できるアウトドアグッズがたくさんありました。「山登りも道具も好きなんです。とくに使い込んだものが良くて。家も道具の延長線上にあるものだなあって思ってます」とご主人。天気の良い日はウッドデッキでお湯を沸かしてコーヒーを飲んだり、ハンモックを設置してのんびり風に揺られてみたり……家にいながら、ちょっとしたキャンプ気分を味わうことができます。



なにげない日常が 楽しくなる

1階はリビング、キッチン、ワークスペースなどそれぞれの場所がつながりつつも、ほどよい距離感が保たれています。また2階からつながる籠り部屋はご主人の趣味のスペースに。何気ない日常の暮らしが楽しくなる、そんなN様の住まい。

1…白をベースにした収納豊富なキッチンスペース。2…ご主人の好きなものを集めた趣味のスペース。3…家の中がじんわり暖まる薪ストーブ。



取材後記

つばのモデルハウスを見て「これと同じ家建てたい!」と感動したというN様。私自身もN様の住まいを拝見して「こんな素敵な家ならば是非私も住みたい!」と同じように感動しました。実際に五感で体感できることってやっぱり大事ですね。細かくつくり込める注文住宅の良さとはまた違う、良いと感じた家をそのまま建てられるのが企画住宅ならではの良さなのだなあと改めて感じました。(記: 広報 吉川)



設計: 伊礼智設計室 (i-works project) / 施工: 相羽建設
撮影取材・編集: 伊藤・栗林・吉川 ainoha/バックナンバー→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

窓辺が心地よい 5 角形の家

特集 その後どのように暮らしていますか？

窓辺が心地よい5角形の家

練馬区 | K邸(ご夫婦2人+子ども2人) | 木造一戸建て



1

家づくりストーリー

今回ご紹介させていただくのは、住みはじめてから8年ほど経つK様の暮らし。今では子どもたちも独立し、ご夫婦2人でゆったりと過ごされています。

以前はマンション住まいだったK様。子どもたちの進学のこともあり、家づくりを決意されました。「またマンションへ移り住むことも考えたけれど、木をたくさん使っている家に憧れていてね、戸建てにしようと思ったんです」とご主人。ある日、家の近くで開催されていた見学会に行った際、建築家の伊礼智さんと出会ったそうです。「お話するうちに、家づくりの考え方やセンスにとっても共感しました」。その後も何度か伊礼さんの見学会に足を運び、いよいよK様の家づくりがスタートしました。



2

5角形の敷地を活かす

K様の家は、普通の土地とは少し異なる5角形の変形敷地に建てられています。家づくり当初、この土地を見た設計者の伊礼さんは、「単純な四角い形でまとめる家よりも、5角形に変形した敷地を活かした方が豊かな空間になるはず」と、見事にこの土地ならではのプランをつくられました。

完成した家には、吹抜けの空間・ロフト・ピアノ部屋など、ワクワクするスペースが所々に設けられています。とくに2階リビングの窓辺は、家の中でもとくに居心地の良い場所のひとつ。家の前に植えられたヤマモミジや、向かいの家の大きなケヤキが眺められる位置に窓が設置され、一年を通して四季の変化を楽しむことができるそうです。

「実は以前住んでいたマンションと今の家の広さは、そこまで変わらないんだけど、上手に設計してもらってこんなにも住み心地が良いものなんだなぁと実感しています」とニコリ笑顔のK様。



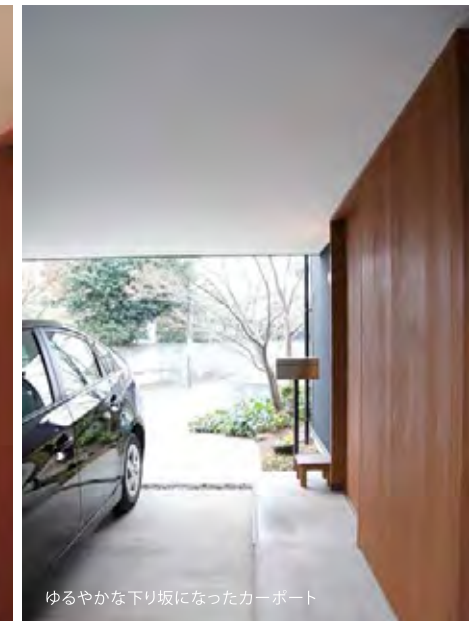
設計：伊礼智設計室 伊礼智



落ち着きのあるダイニング



ロフトへと続く階段



ゆるやかな下り坂になったカーポート

特集1 地域の人と文化が交わる場「つむじ」

i-worksモデルハウス

特集2 完成しました！

まつぼっくり保育園

特集1 地域の人と文化が交わる場「つむじ」

i-worksモデルハウス

1

「永く住み続けられる家」

2015年2月28日より、建築家伊礼智さん設計の「i-worksモデルハウス」がオープンしました。建物を敷地いっぱいにつくるのではなく、庭とのつながりや窓から見える景色を上手に取り入れることで、小さくても心地よく暮らすことができる家です。4人家族が暮らすイメージで考えられたこの家は、ライフスタイルの変化に合わせて間取りをかえられるなど「時間の変化への対応」をテーマのひとつとしています。『安心して永く愛着を持って住み続けられるように…』そんな想いがこめられています。

1

Living room



2
Wood deck

リビングと和室を外からつなぐウッドデッキ。庭をひろくとってあるので景色を楽しみつつ、ぐるりと外回りを歩けるのが嬉しい。



3
Free space

外は日当たりの良い
2階バルコニー

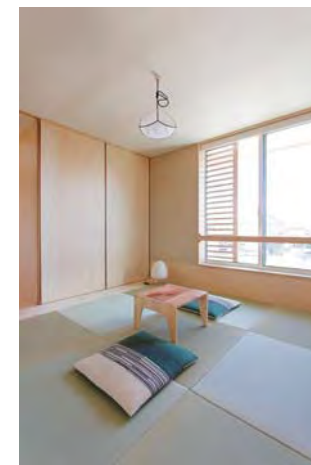
自由に使える2階のフリースペース。間仕切り壁を外せば隣の和室ともつながり、家族の成長にあわせて広さを自由に変えることができます。

4
Kitchen



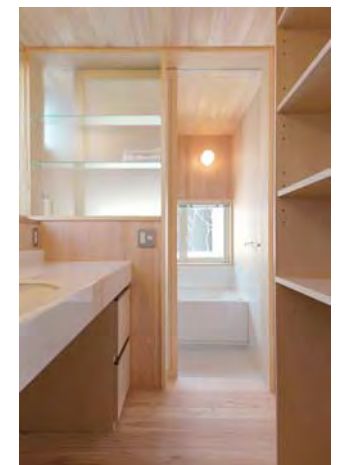
リビングとつながるL字型の造作キッチン。チークの手がけは、伊礼さんオリジナル仕様。

5
Tatami Corner



ゆったりとした時間を過ごせる和室。間仕切り壁を外せば、隣の部屋とつながります。

6
Bathroom



ハーフユニットバス。木の香りとやわらかさに、一日の疲れもとれてホッと一息…。



ソーラータウン久米川

2

伊礼智さんと 相羽建設の取り組み

伊礼智さんと相羽建設の初めての出会いは、2000年にはじまった「ソーラータウン久米川」のまちづくり。全19棟すべてに太陽熱を利用して家を暖めるOMソーラーを搭載し、永く心地よく住み続けることができる豊かな住まいを目指しました。そこで伊礼さんが力を入れたのが『設計の標準化』。設計が標準化されていることで、回を重ねるほど現場の作り手の精度も上がっていき、品質の向上や工期の短縮、コストを抑えること

にもつながります。良いところは残し、改善するところは改善していくことの繰り返しが質の高い標準となっていき、心地よいと感じる住まいとなるのです。相羽建設の家づくりは、伊礼さんとの『設計の標準化』へのチャレンジの中で培われてきました。今回の新しいi-worksモデルハウスでは、標準化とともに「デザイン×性能×コスト」のバランスをテーマに取り組みました。これからも伊礼さんとの新しい挑戦は続いていきます。

つむじ i-worksモデルハウス



リビング横の開口部を大きく開くことで、外からの光を室内に取り込みます。「窓際が一番心地よいデザインの可能性がある」という伊礼さんの言葉通り、窓の横に置いたベンチで家族がゆったりと過ごせる居心地の良い場所。

モデルハウスみどころ



植栽図：小林賢二さん

歩き回りたくなる「庭」

リビングからデッキに出たときに、水鉢や靴脱ぎ石、飛石で作られた庭の景色がとても魅力的。外構デザインは、造園家の小林賢二さん。食がテーマなので「つむじ」全体が出来上がるころには、食べられる植物を多く入れたり、いろいろな住宅のお庭にお薦めできる150種類ほどの植物（雑草を含め）が入る予定です。楽しみですね♪

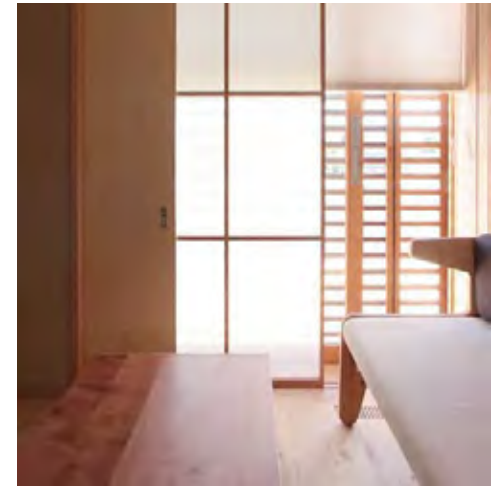


1階リビングの開口部には様々な仕掛けがあります。引き込める木製サッシや、外光をほどよく遮蔽する「ガラリ」、レースの障子など全6種類!それぞれを重ねあわせたり開き方を調整することで、室内の雰囲気や外部とのつながりの変化を楽しめます。お気に入りの組み合わせを見つけてみませんか?



TVボード横の格子。光が差し込むと壁や床にキレイな四角い光の模様が見えます! 建具屋さんの手しごとが光る造作。

6つ楽しめる「開口部」



Q値1.9以下「あったかい家」



このモデルハウスでは、断熱・気密の性能を重視し、Q値1.84を実現しました!この数値は小さければ小さいほど熱が逃げにくいことを意味します。たとえば東京でQ値1.9の家にOMソーラーを搭載すれば、それ以外の暖房がほぼ不要になると言われています。家全体があたたかく温度差が小さいことで体への負担が減り、冬場に多いヒートショックの防止にもつながります。家族みんなが『健康』に暮らせることを大切に考えた家です。



みどころは他にもたくさんあります!
ぜひモデルハウスに見学に来てみてくださいね。



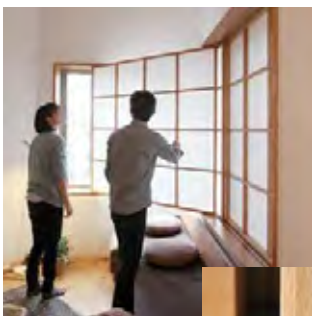
伊礼 智

1959年沖縄県生まれ。1982年琉球大学工学部建設工学科計画研究室卒業。1985年東京藝術大学美術学部建築科大学院修了。丸谷博男十エーアンドエーを経て、1996年伊礼智設計室開設。2005年より日本大学生産工学部建築工学科「居住デザインコース」非常勤講師。2012年「i-works project」標準化された豊かな住まいを立ち上げる。2013年「i-works project」でグッドデザイン賞。

【つむじ i-works モデルハウス】
営業時間 10:00 ~ 17:00 (水・木休館)
会場：東京都東村山市久米川町 4-34-6
東村山駅 (東口) より徒歩 12分
→詳しい案内図は P.23 へ

3

住まいの見どころ紹介



ヒミツは木
枠の左右両
端にある丸
い突起

↑障子を外さずにスラ
イド移動できます

▲ 吹抜きの2階リビング

ロフトとつながる2階リビング。角の大きな窓は外の景色を眺められるだけでなく、障子を閉じれば落ち着いた雰囲気へとかわります。そしてこの障子にはちょっとした仕掛けが施されています。木枠の両端に突起がついるため、横だけでなく、斜めにもスライド移動が可能です!実際にご主人に動かして見せていただくと、どこにもぶつかることなくスッと定位置に納まってしまいました。ちょっとしたアイデアに思わず笑顔になります。



◀ キッチン

リビングとつながるキッチン。もともと持っていた食器の数や家族構成をもとに、ぴったり納まるように設計。カウンターも奥様の背丈に合わせて、リビングから見た際に、ちょうどキッチン周りの目隠しになるような高さにつくられています。思いやり溢れるキッチン。

ピアノ室 ▶

木製サッシで仕切られているピアノ部屋。ガラスのため自然の光が差し込み、部屋の明るさを保たれます。さらに防音2重ガラスとなっているため音の心配も不要。最初は子どもたちのために……と購入したピアノ。今ではご主人が楽しまれています。なんとその場で素晴らしい生演奏も聞かせて頂きました!(感動)



取材後記

K様ご夫婦とお話している際、当時のプラン集や伊礼さんのラフスケッチなども見せて頂きました。家づくりから8年経った今も資料を大事に保管されていることを知り、なんだか胸が熱くなりました。今後は「孫たちが家の中で遊べるように」と子ども部屋の改装計画もあるとのこと!ますますこれからの暮らしも楽しみですね。(記:広報 吉川)



設計:伊礼智設計室→<http://irei.exblog.jp/>

取材:伊藤・桑山・吉川 取材後記はコチラ→ <http://ameblo.jp/ainohablog/>



ainoha
- アイバノコトノハ -



i-works 特集1

地域の人と文化が交わる場『つむじ』

i-works モデルハウスオープン！



take free
ご自由にお持ち帰りください

2015 * March vol.39

i-works特集2 「その後、どのように暮らしていますか？」

つながる居場所のある家

東京都東久留米市 | A邸

i-works (設計:伊礼智) 5人家族(ご夫婦+子ども3人)

1 Story

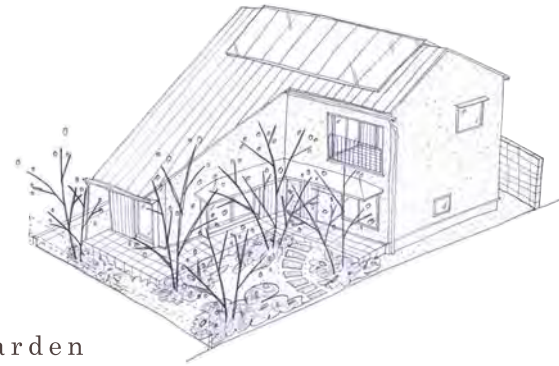
家づくりのはじまり

以前はマンションで暮らしていたAさま。3人目の子どもが生まれた時に、「子どもたちももっと家中を元気に走り回れるように」と引っ越しを決めました。

さて、家づくりについて調べていくうちにたどり着いた建築家が伊礼智さん。「デザインはもちろん、伊礼さん自身お料理をされる方だったので、キッチン動線やその周りとのつながりを大切にされているところに魅かれました!」とご主人。そんな想いを込めて、大きな吹抜けのあるリビングを中心に、庭・書斎・キッチン・子ども部屋…それぞれの居場所が緩やかにつながる住まいが完成しました。



目隠しとしての大きな塀を
設けないことで、道路との
つながりを緩やかに。



2 Garden

みんなが行き交う庭

「この家に住んでから、子どもたちのお友達がよく遊びに来るようになったんです」というAさま。大人数が来るときは、リビングの大窓を全開にして、自由に入出りできるようにするそうです。窓から入れるというのは大人心にもワクワクしますね。「最初は窓が大きいと人目が気になるかな?とちょっと心配でした」とAさま。

しかし意外と外からの視線は気にならず「庭が開けている分、ご近所さんや通りがかりの人とお喋りする機会も増えて仲良くなるきっかけになりました」と笑顔でお話しされていました。人だけではなく、決まった時間に水浴びに来る小鳥や、通りがかりの猫がお水を飲みに来たり……、いろんなつながりが生まれる庭です。



まるごと戸袋の中に収まるようになっているサッシ。窓を全開にすれば部屋の中いながら外の空気を感じられる贅沢なリビング。



4

Connection

つながる居場所

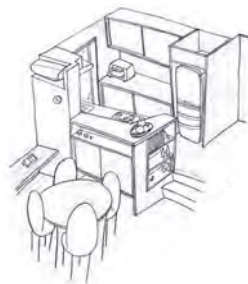
Aさまの家は、それぞれの部屋が少しずつつながっています。完全に部屋を壁で仕切らなかつたり、視線の位置を変えたり。直接目には入らないけれど、なんとなく家族の気配を感じるくらいの距離感。お話をする中でおおらかなAさまの人柄と、全体と優しくつながるこの家がなんだか似ている気がしました。住む人の気持ちが反映されているかのような安心感のある住まいです。



3

Kitchen

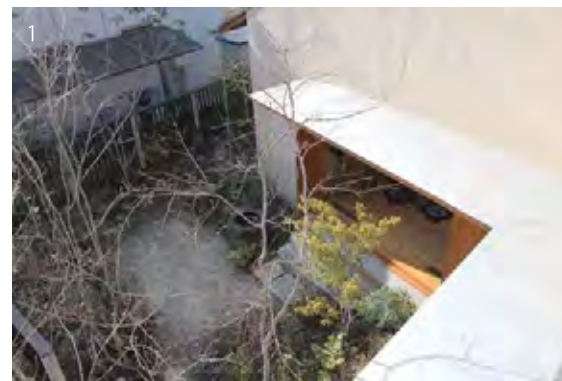
梅林が見えるキッチン



リビングと庭の両方を眺められる対面キッチン。勝手口の向こう側は梅林になっているので、季節を感じながらお料理を楽しめます。ご夫婦ともにお料理をされるそうで、「2人がすれ違えるくらいの幅がいいね」と通路がちょっと広めになっていました。奥さまは茶道を嗜まれていて、時々道具を出して家でお茶を点てているそうです。「将来は、お庭のちょっとしたスペースで野点の茶道も楽しみたいなあ」と奥さま。春のポカポカした天候の中、まったりとした光景が浮かびます。



美味しいお茶とお菓子を頂きつつ、奥さまにお作法を教えていただきました。



1.インナーバルコニーから眺める庭 2.リビングを見下ろせる2階子ども部屋 3.可愛い布がたくさん。奥さまの趣味の裁縫スペース 4.天気の良いと富士山が見えるインナーバルコニー 5.落ち着いて仕事ができるリビング奥にある書斎スペース



「楽しい貴重なお時間をありがとうございました！」
取材：伊藤 / 吉川 取材後記はコチラ → <http://ameblo.jp/ainohablog/>